

【1】低下する自己実現志向と伝統保守志向

① 2005年から変化した価値意識

はじめに、2005年から2012年まで継続して測定してきた36の価値意識項目から、この間の価値意識の変化を探る。

2005年から2012年にかけて、賛成率^(注)が10%を超えて低下したものが9つあり、そのうちの上位5つと、約5%以上上昇した5つを下図に示した。

最も大きく変化したのは、「人間関係をひろげたい」が65.5%から47.4%へと18.1%の低下、次いで「他人のために役立ちたい」13.7%低下、「能力や可能性を試したい」13.1%低下、「国や民族の文化を守りたい」12.5%低下、「自然に囲まれた生活がしたい」11.7%低下となっている。

一方上昇したのは、「自分の国や民族がすぐれている」が14.7%から25.6%へと10.6%上昇、「たいいていの人には信頼できる」8.7%上昇、「裏切らない人とだけ付き合いたい」7.1%上昇と続く。

2005年からの7年間、人々の価値意識は、外向的で前向きな志向性が低下して、自身を取り巻く外部環境に対して、より内向きの志向性が強まっていることがうかがえる。

注) 賛成率とは、各価値意識項目は5段階尺度で測定しており(「非常にそう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」)、そのうちの「非常にそう思う」と「まあそう思う」の合計の数値であり、提示された項目に対して肯定的な人の比率を示している。

図表2-1. 2005年から変化した価値意識の上位項目

